

Vol. 13
2015.3.25

廃棄物資源循環学会 九州支部 News Letter

研究集会報告
施設研修部会

バイオマスによる持続可能な社会構築への貢献と 課題を探る研究集会 ~電源開発株式会社施設研修~

平成 26 年 11 月 29 日(土) 第 12 回となる「バイオマスによる持続可能な社会構築への貢献と課題を探る研究集会」と題した施設研修会を北九州市にある電源開発株式会社若松研究所において参加者 34 名を得て実施しました。研修会は、当学会九州支部の星野幹事長の挨拶に始まり、技術開発部若松研究所バイオ研究室課長 松本氏による「微細藻類を用いたグリーンオイル生産技術開発における J-POWER の取組について」と題した講演と国内最大規模の屋外培養施設の視察、そして質疑の順で約3時間に亘って熱心に行われました。今回の研修を通して、最新のバイオマスによる持続可能な社会構築への技術開発の取組状況及び微細藻類を用いたグリーンオイル生産技術開発の重要な課題と中長期的な将来展望を理解できたことは今回の研修の大きな成果でした。最後に、今回の施設研修開催に当たりご協力いただいた電源開発株式会社若松研究所の松本様をはじめ関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

(施設研修部会幹事 古保里俊夫)

廃棄物資源循環学会
九州支部事務局

〒816-0943
福岡県大野城市白木原
3-5-11
(一財) 日本環境衛生センター
西日本支局内

TEL : 092-593-8225
FAX : 092-572-1218
E-MAIL : kyushu@jismcwm.or.jp



写真 1 施設研修の講演風景

研究集会報告

調査研究部会

廃棄物資源循環学会九州支部「若手の集い」開催報告

平成 27 年 2 月 26 日(木)に福岡大学七隈キャンパス内にて、第 1 回「若手の集い」を開催しました。九州支部の若手会員もしくは今後入会が期待される若手研究者など 11 名の参加を得ました。(福岡大学で独自に開催している勉強会参加者 13 名を含めると計 24 名の参加者となりました。)内容は「廃棄物管理の日欧比較と今後の展望」と題し、研究課題・実務課題の今後の展望について自由討議を行いました。まず、参加者の自己紹介の後、福岡大学・鈴木による「オーストリアにおける廃棄物管理」に関する報告がなされました。2013 年 8 月～2014 年 8 月における在外研究経験をもとに、日欧比較を念頭に置いた報告がなされ、結論として、その地域住民の特性、その国家・地域の歴史や気候を熟知した上で廃棄物管理計画を立てることの重要性が指摘されました。特に処理技術の歴史的な発展については国によって大きな違いがあり、焼却処理を多用するかしないかの違いが全体の管理スキームに与える影響の大きさが語られました。従って、研究活動そのものは普遍的な真理を探究することにあるものの、求められているのはその地域・住民だけに最適な「オンリーワン」のモノ・システム作りであることから、研究活動を行うにあたっては、その評価指標・判断指標となりうる成果が得られるかを意識しながら進めることが必要であると語られました。参加者からは、ごみ収集の頻度・時間帯、産業廃棄物の処理区分やその処理形態、ごみ処理コスト、組成分析等の実施状況など、多種多様な質問が活発になされ、海外の廃棄物管理に対する理解を深めるのに大きく貢献しました。その後は、時間の関係上、調査研究事業の今後のあり方に焦点を絞って討議がなされました。支部会員相互の交流活性化と、「共同研究」実施を目標に、学生を含む若手研究者を対象に自由討議を行う機会を年 1 回程度確保することで、参加者同士での合意形成がなされました。この場をお借りして関係各位にお礼申し上げます。

(調査研究部会幹事 鈴木 慎也)

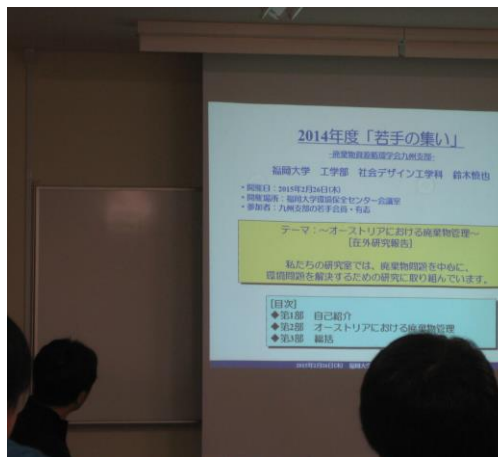


写真 2 若手の集いの講演風景